

2018年（平成30年）10月4日

## 山陽線不通区間の代替輸送について （10月4日14：00現在）

先月9月30日に日本列島に上陸した台風24号の影響により、山陽線光駅・下松駅間において土砂流入が発生し、貨物列車は現在も下記の区間で運転を見合わせています。現在、西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）による懸命な復旧作業が行われておりますが、発生から運転再開までの期間は、少なくとも一週間以上を要する見込みです。

このため弊社では不通区間の代替として、以下のとおりトラックによる代行輸送をおよび迂回貨物列車の運転を実施しますのでお知らせ致します。

### 1. 列車の運転を見合わせている区間

山陽線 柳井駅・下松駅 間（山口県内）

### 2. 貨物列車運転中止区間

山陽線 岩国駅・新南陽駅 間（山口県内）（72.9km）

### 3. トラック代行輸送

各駅で滞っている貨物の輸送を目的として、現在下記区間でトラックによる代行輸送を実施しております。

- 広島貨物ターミナル駅・北九州貨物ターミナル駅 間  
輸送力 片道当り12フィートコンテナ 最大40個  
開始日 2018年（平成30年）10月2日
  - 広島貨物ターミナル駅・福岡貨物ターミナル駅 間  
輸送力 片道当り12フィートコンテナ 最大40個  
開始日 2018年（平成30年）10月2日
  - 広島貨物ターミナル駅・新南陽駅 間  
輸送力 片道当り12フィートコンテナ 最大20個  
開始日 2018年（平成30年）10月3日
- ※ 危険品等については輸送に制限がある場合があります。  
※ 輸送力については、今後増強を検討していきます。

### 4. 迂回貨物列車の運転

トラックによる代行輸送に加え、さらなる輸送力の確保を目的として、下記のとおり迂回貨物列車の運転を行います。

#### (1) 列車運転区間

名古屋貨物ターミナル駅・福岡貨物ターミナル駅 間

#### (2) 迂回区間

岡山貨物ターミナル駅～倉敷駅～伯耆大山駅～米子駅～益田駅～新山口駅～幡生操車場

※ 別紙参照

#### (3) 運転開始日

下り 名古屋貨物ターミナル駅 発 2018年（平成30年）10月5日（金）

上り 福岡貨物ターミナル駅 発 2018年（平成30年）10月6日（土）

※ 迂回区間の運転は上り・下りとも 10月6日（土）からとなります。

(4) 運転本数・運転時刻

- 下り 岡山貨物ターミナル駅 (3 : 47) → 幡生操車場 (21 : 15)  
※名古屋貨物ターミナル駅発 (20 : 37)  
→福岡貨物ターミナル駅着 (翌日 23 : 37) として運転
- 上り 幡生操車場 (3 : 52) → 岡山貨物ターミナル駅 (22 : 12)  
※福岡貨物ターミナル駅発 (1 : 35)  
→名古屋貨物ターミナル駅着 (翌日 7 : 40) として運転

(5) 編成両数

- 7～8両編成・・・機関車1両、貨車6～7両  
(5トンコンテナ積載可能個数30～35個)

5. 今後について

復旧見込みについては、復旧作業の状況を勘案して運転再開の検討を行っていますが、現在のところ目途はたっておりません。見込みが判明次第改めてお知らせ致します。

また、代替輸送等の実施状況についても変化がありましたら、決定次第お知らせ致します。

※ 日々の運転状況等については弊社ホームページ「現在の輸送状況」も併せて御覧下さい。

(参考) 貨物列車運転中止区間の概要

1. 一日当り輸送量 23,592トン (全社輸送量86,814トンの約27%)
2. 一日当り列車運転本数 54本 (全社列車本数の約12%)
3. 主な輸送品目 上り (大阪) 方面 宅配貨物、農産品、食料品、工業製品等  
下り (九州) 方面 宅配貨物、雑誌書籍、食料品、工業製品等

# 「台風24号上陸」に伴う貨物列車運転状況等について(10月4日時点)

—— 運転可能区間      ..... 貨物列車不通区間



※(夕)は「貨物ターミナル」の略

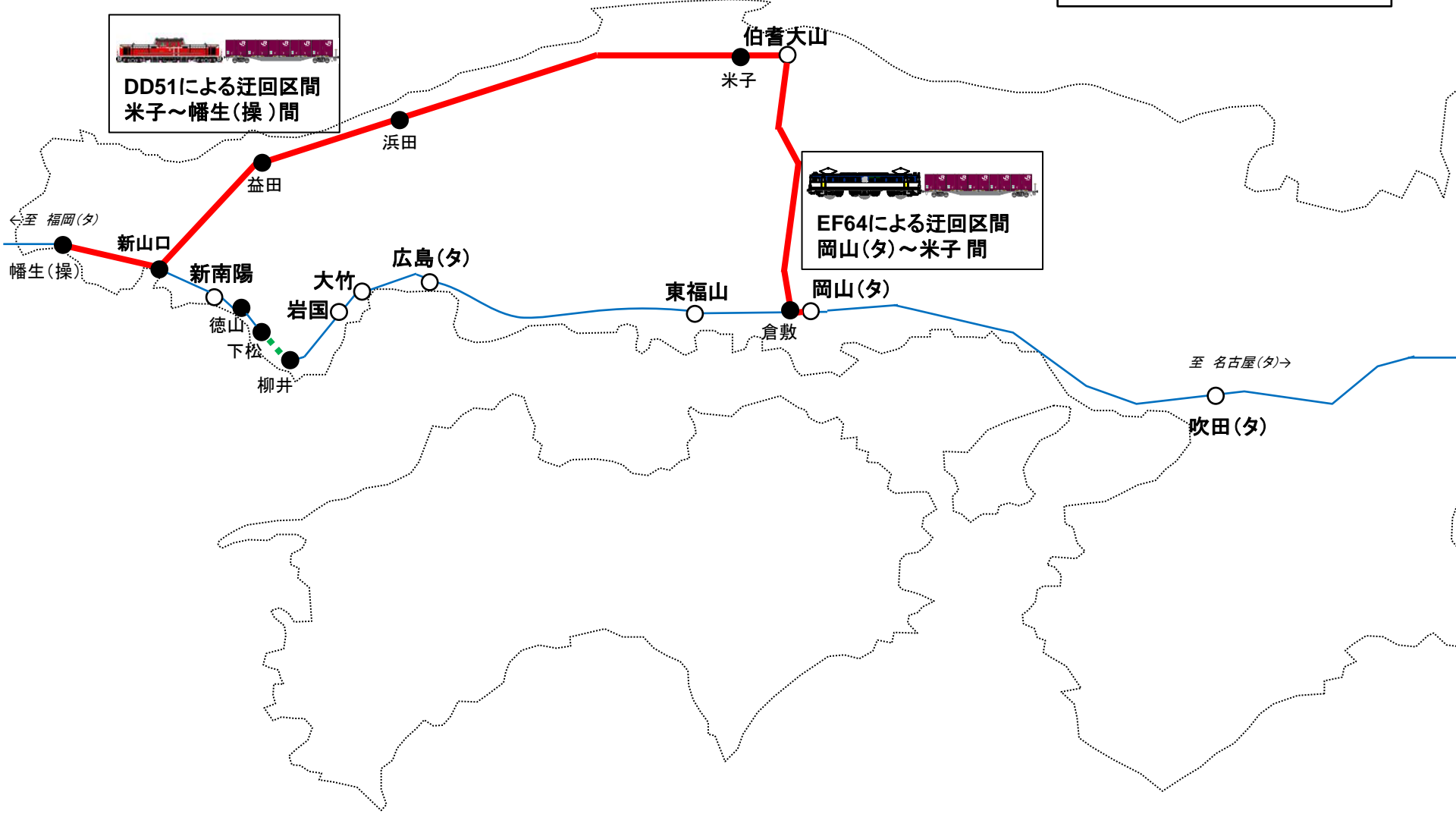
# 迂回運転するルート

迂回区間(赤線部分)  
山陽線:岡山(夕)~倉敷  
伯備線:倉敷~伯耆大山  
山陰線:伯耆大山~益田  
山口線:益田~新山口  
山陽線:新山口~幡生(操)

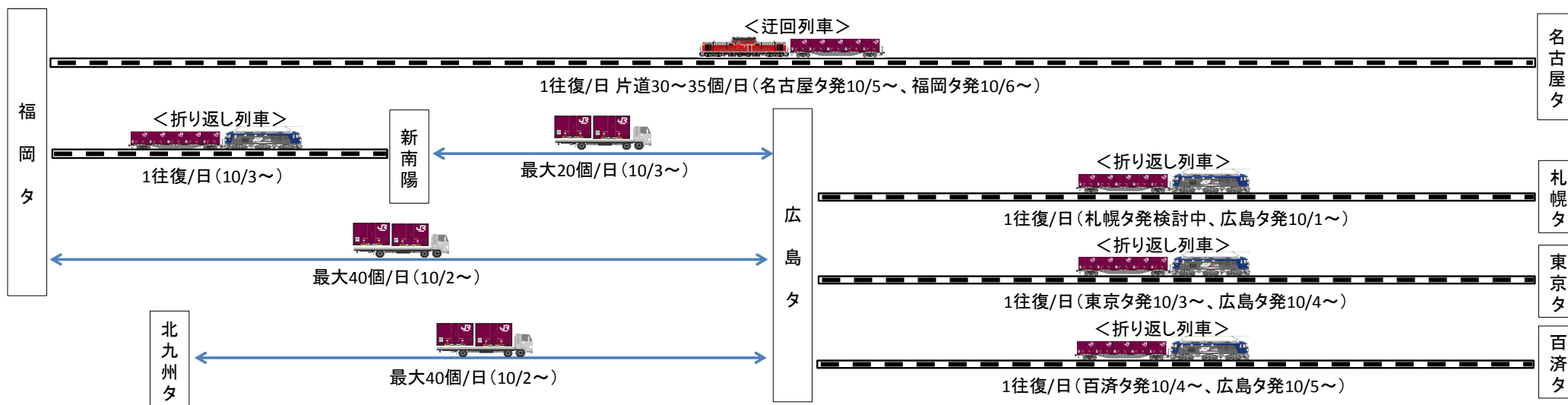
- 貨物列車主要路線
- - - 不通区間(10月4日時点)
- 迂回運転するルート
- JR西日本・JR貨物の主な駅
- JR西日本の主な駅

  
DD51による迂回区間  
米子~幡生(操)間

  
EF64による迂回区間  
岡山(夕)~米子間



台風24号の影響によるトラック代行輸送・迂回列車運転  
(2018年(平成30年)10月4日時点)



※ トラック代行区間に記載されている数値は片道の12フィートコンテナ輸送力となります。

確保できる予定の代行輸送力  
最大265個/日